



# アホウドリと僕の四十二年間

風にのり海の上を滑るように飛ぶアホウドリ。

かつて羽毛採取のために五〇〇万羽が捕獲され、僕が初めて

繁殖地を訪れた時たったの十五羽しかヒナがいなかった。

悲しい物語でこの鳥の歴史を終わらせたくない。

なんとかしなければと決意した。

東邦大学名誉教授

長谷川 博

## 季節の便りはどこだろう

静岡市を南北に流れる安倍川の河口からまっすぐ二・三・五キロ北上した山あいに十軒ほどの小さな集落があります。僕はそこで生まれました。まわりは茶畑とミカン畑、山林で、家から少し下りると幅五百メートルほどの河川敷が広がり、そこが僕の遊び場でした。昔は本当にたくさん魚がいたので川の岸辺に石を積んでトラップを仕掛けるだけで、遡上する魚を簡単につかまえられるのです。時にはウナギも見かけましたよ。毎日夢中で遊ぶうちに魚からカエル、さらには昆虫と多様な生きものの世界への関心が広がっていきました。

小学校一年の時、担任の先生が「季節の便りを探そう」という課題を出してくれました。僕の家は学区の一番南、春も夏も一番早くやってきます。「ホタルブクロが咲いた」、「ヤマユリが咲いた」と一番乗りで報告できるの